

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース等
第2091回★★ 夏山大会 加賀 白山 △2,702m	8/3(土)～4(日) 3日 7:00 竹田駅西口集合	CL 吉田 武 (654) SL 大倉寛治郎	3日 京都-福井北IC- 別当出合-南竜山荘(泊) 4日 南竜山荘-室堂-御 前峰-別当出合-京都
第2092回★★★ 比良沢登り タンヤマ谷	8/11(日) 11日 6:30 壬生厚生会館前	吉田 武(654)	京都-北小松駅-滝川-タ ンヤマ谷-ヤケ山とヤケオ 山の鞍部-涼峠-北小松駅
マイカーで行きます。事前連絡して下さい。			
第2093回★★★ 朝日連峰縦走	8/18(日)～22(木) 18日 23:30 京都駅ホーム 急行「きたぐに」乗車	吉田 武(654)	費用 50,000円 山小屋泊装備 行動食, 食 料, ツェルト
(18日～19日) 京都駅-新潟駅-合泉駅 <sup>タクシー</sup> 祝瓶山荘(泊) (20日) 祝瓶山荘-平岩山-大朝日岳-大朝日小屋(泊) (21日) 大朝日小屋-以東岳-以東小屋-大鳥小屋(泊) (22日) 大鳥小屋-鶴岡駅-京都駅 参加者は、切符の都合がありますので、担当者に連絡して下さい。			
第2094回★★★ 黒岩山と皇海山	8/29(木)～9/1(日) 29日夜出発	吉田 武(654)	費用 30,000円 参加者、事前連絡して下さ い。
(29日～30日) 京都-(北陸道)-長岡JCT-沼田IC-大清水(仮眠) (30日) 大清水-二俣(駐車) <sup>沢登り</sup> 黒岩山-二俣-沼田-皇海橋(テント泊) (31日) 皇海橋-不動沢-皇海山-皇海橋-峰ノ茶屋(テント泊) (1日) 峰ノ茶屋-浅間山往復-峰ノ茶屋-佐久-小淵沢IC-京都東IC			

<b>第2095回★★★</b> 大倉山 △1,004.6m	8/31(土)～9/1(日) 20:00 竹田駅西口	大倉 寛治郎 (3371)	名神南IC-金沢西IC-刀利 ダム-中河内…大倉山… 赤堂山…中河内 地図 1/5万図 下梨
<p>備考 テント泊, 食事は各人で準備して下さい。</p> <p>マイカー山行ですので, 参加希望者は事前に連絡して下さい。</p> <p>読図の勉強と体力にチャレンジを試みませんか。</p> <p>石川県, 富山県の県境の山で, 資料は「越中の百山」北日本新聞社刊より。</p>			
<b>今月の集会</b> 日時 8月8日(木) 18:30 場所 厚生会館4F 大教室		<b>企画運営委員会</b> 日時 8月16日(金) 18:30 場所 厚生会館4F 大教室	



梅雨も明けた。明けた途端に35度を超える猛暑である。太平洋高気圧がどっかと居座っている。今年も暑くなりそうである。

暑くなると祇園祭りがやってくる。切符売りや乗客整理に駆り出されるのも毎年のことである。今年の祇園祭りは不思議と雨が降らなかった。こんなことは本当に珍しいことである。毎年、宵々山、宵山、山鉾巡行の間に、たとえ夕立でも必ず降るのだが、今年はそれもなかったようである。雨がなかったので、人出も多くなるかと思ったが、すべてウィークデーになったせいaka期待したほどの人出はなく、乗客も意外と少なかったようである。

7月19日から、アメリカのアトランタで第26回オリンピックゲームが始まる。今回はアテネでの第1回大会から100周年にあたり、参加国も197ヶ国と史上最大の規模となっている。オリンピックの競技種目に登山はない。日本では国体の正式種目として登山競技がある。山中の一定の距離を一定の荷物を背負って歩きタイムを競ったり、岩登りで困難なコースを克服しタイムを競ったりする。

登山を競技の対象とすることについてはさまざまな意見がある。そもそも登山で勝敗を競うなどのもつてのほかであり、登山という神聖な行為を汚すものだという意見と、近代スポーツとして発展するためには競技化して、技術の向上と底辺の拡大を図るべきだという意見が主たる対立点である。オリンピックの種目となっていないのは、おそらく登山を競技化する方法が難しいからであろう。タイムを競うのは登山の本質とは少しずれているように思う。

京交山岳部の大先輩である坂井久光氏が、日本全国の標高500m以上の一等三角点548山を全て登るといふ快挙をまもなく達成する。今年の夏に北海道の9山を登れば目標を達成できるのだ。おそらく8月中旬には完登できるであろう。この記録は掛け値なしに日本一である。坂井氏がこの大記録を無事達成されるよう部員一同声援を送りたい。 (H.8.7.17.記 S.I.)

## 七 洞 岳（伊 勢）

岡 田 茂 久

連日の雨続きに中止かなと危惧していたが、梅雨の中休みにうまく当たってくれたのは、まったくの幸運であった。

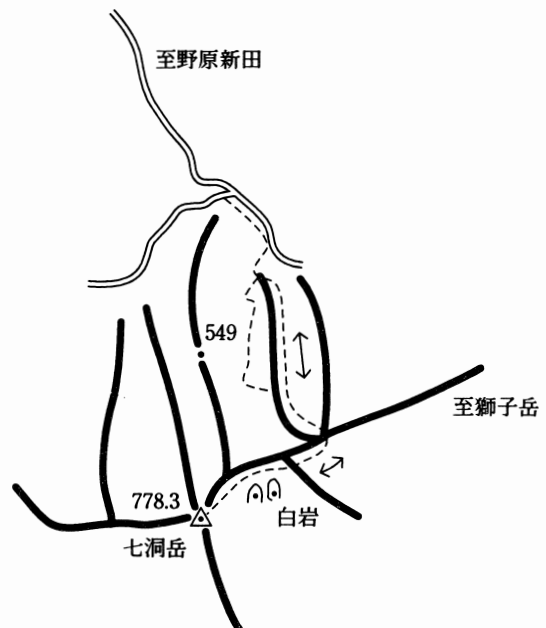
今日の運行車両はK氏の高級ワンボックス車、参加メンバーは7名、豪華ゆっつりのんびりの道行きである。名神栗東からR1号線を関ICへ、伊勢自動車道を勢和多気で降り、インター前のコンビニで食料を調達。勢和町を経て野原新田の集落から尾合谷沿いの林道を詰める。

集落を過ぎるとすぐに舗装路は地道となり、所々のぬかるみに新しい大きな輪だちがある。材木運搬のトラック等だと離合が厄介だなど思いながら、車を留置する予定であった林道分岐までくると、はたせるかな大型の車両が道幅一杯に林道をふさいでいる。「やれやれターンも難しいやんか」と思った途端、顔を黒く塗り迷彩服で全身を被った異様な一隊がばらばらと現れたではないか。なんやなんや一瞬ドキリとしたが、「すませーん！すぐどけます」。一隊の後ろから出てきた数人の濃緑のランニング姿の男は、えらい低姿勢であった。陸上自衛隊の新兵さんのサバイバル訓練だそう。雨続きの一昨日からの継続訓練で、30kgはあるでしょうと説明してくれたが、担ぎ難くそうなザックに重そうな銃、指揮者が「2キロ前進し散開」の号令で、ピッコを

引きながら出発していった。ランニング姿の曹殿が「御前等が楽しみにしていた七洞岳の訓練は今日で終いだ。おらおら、その格好はなんじゃ！、民間人が見とるぞ恥ずかしくないんか」。頑張れ新兵さん！。苦勞して大きな兵員輸送車を移動し駐車場所を開けてくれたが、脇に駐車したワンボックス車はなんとも平和だった。

登山支度を済まし、自衛隊の一隊と別れて、谷沿いの荒れた林道を詰める。ほどなく古びたトタン小屋に出会う。林道はまだ谷の奥へ延びているが、登山口は小屋の脇からである。沢を渡り尾根を回り込むと、左上に支尾根を登る道と、地図にある右の谷沿いに登る道に分岐する。

尾根道は良く手入れされた杉・松の植林の



中のしっかりした道であるが、なかなかの急登である。喘登しばしで傾斜が緩くなり、950mコ  
ンタ付近から道は左に巻くようになる。この辺りで谷を詰める地図の道と合流する筈であるが、  
谷道は確認できなかった。獅子岳へ続く稜線に近付くと植林は灌木となり、稜線に至ると道は90  
度方向を変え南西に向かう。緩い登りで南の地方に特有の下生えのない粗林となり、気持ちの良  
いルートだ。前方が明るくなるとボンと大岩壁の上に飛び出る。展望台また白岩ともいい、この  
岩壁から七洞岳の別名も白岩峰ともいう。梅雨の季節のほんの気紛れの晴れ間、期待していた熊  
野灘から伊勢湾のリアス式海岸の絶景は、残念ながら霞かモヤの彼方。それでもすっぱり切れ落  
ちた大岩壁からの伊勢の山々の展望は素晴らしかった。

本峰手前の小ピークを越えると、見事な馬酔木の粗林が続く。花の季節はさぞ素晴らしいこと  
であろう。馬酔木のトンネルを抜けると七洞岳778.28m頂上であった。大きな一等三角点が真  
ん中に鎮座する小広い頂上であるが、残念ながら灌木に囲まれ眺望は今一つである。唯一開けた  
北面からは多気から松阪周辺の山々の展望が素晴らしい筈であったが、大きなスズメ蜂が飛び回  
り近付けない。何のためか三角点に面した灌木に鏡がぶらさげてあった。木陰の空き地で昼食、  
時々スズメ蜂が警戒に飛来して落ち着かなかったが、それでも小1時間は過ごした。下りは往路  
を快適に飛ばして登山口に到着する。自衛隊の新兵さん達は既に撤収した後で、山菜取りらしい  
中年の御婦人が二人、我々を見て慌てて車で下って行ったがなんだったのだろう。

当初は時間があれば獅子岳の往復も考慮していたが、稜線の分岐からは細々とした踏跡で、距  
離とルートハンティングの煩わしさに、帰りの時間を考えて割愛した。しかし駐車場所で正午過  
ぎとはいかにも早すぎる。獅子岳の代わりに帰り道すがらにもう一つをかせぐことにした。

勢和町からR 368を飯南町、美杉村の広瀬を経て下太郎生への峠を登る。大洞山と尼ヶ岳の鞍  
部になる峠で大タワという。大洞山か尼ヶ岳か、帰りの駄賃としては、ちょっともったいない感  
じであるが、伊賀富士とも呼ばれる秀麗な姿の尼ヶ岳とする。東海自然歩道にもなっている庭園  
の様に美しく手入れされた植林の中の道に行く。コブを越え急な階段を上ると東海自然歩道と  
別れ細い踏跡となる。灌木とすすきをかきわけての急登で、振返ると大洞山がぐんとせり上がり、  
やがて広い芝生に被われた尼ヶ岳957m頂上。南側は灌木で遮られているが、伊勢湾が鈍く光り、  
遠く鈴鹿の山々から青山高原、近くには曾爾高原の山々が午後の逆光に映え最高の展望である。  
木陰には石仏が一体ぼつんと鎮座、なんとも気持ちの良い頂上で、思わず長居をしてしまった。  
おかげで楽しみにしていた青蓮寺湖温泉では17時、一般開放時間が過ぎてしまい、宿泊者以外は  
入浴お断わりとは残念なことであった。

#### 【時間記録】

京都 (6:00) = 勢和多気 (8:30) = 野原新田 (8:50) = 林道分岐 (9:00~15) …  
登山口 (9:25) … 稜線 (10:25) … 白岩 (10:35~45) … 七洞岳頂上 (11:00~45) …  
林道分岐 (12:40~45) = 大タワ (14:50) … 尼ヶ岳 (15:10~50) … 大タワ (16:10) =  
青蓮寺湖温泉 (17:00) = 京都 (19:30)

## 【参加者】

方山宗子, 国友 修, 鷺見敏一, 鷺見壽末子, 和田良一, 岡田茂久 (他1名)

## 【第2086回例会】

# 中津灰山 (746.1m) と小仲村 (579.3m)

大槻 雅 弘

地名については、「日本人が古来地名に並々ならぬ関心をよせてきたことは、記紀や風土記にみるおびただしい地名起源説話がそれを物語っている。地名はたんなる記号や名辞ではなく、土地の精霊を冒瀆することはなしに、みだりに改変することが許されないものとされてきた。」『京都市の地名』(平凡社)と刊行のことばは語る。

私も、少なからず地名や山名に関心を持つようになってから、地元の古老や山仕事の人達に、山に登る前後に時間があれば山名等を尋ねることが多くなった。その中で、地図に書いてある地名、山名が、現地で聞きとったものと違ったことが多くあった。

ある人は、既に地図に標記されているものについて自分の採録したものと違えば、地図が「まちがいだ」という人がいる。私は、それに異論を唱えたい。

何故なら、最初にその地名等を採録した人は、その時、その場でなんらかの努力を払って確認したものであるから。多くの人に尋ね、いろんな人達が「〇〇山」と呼んでいて、一人だけ違う呼びかたをする人がいても、その人は、それなりの根拠があつてのことだと思ふからである。

かつて、私は「あの頂は何と呼んでいるのか」と指をさすと同時に、地元の古老から今まで聞いたことのない名が、即座に返ってきたことがある。古老は、何のためらいもなく、生れ育った土地での答えとして力強く返ってきた名に、私はそれを信じるしかなかった。

今回登った山も、山名が中津灰山とか、中津合山とか呼ばれ、どちらが正しいかというのはむづかしい。今回、私は中津灰山で報告をしておきたい。

上林川が、睦寄町で草壁川となって、山間へ向い古屋の方へ東に大きく蛇行して別れる。その上流の最後の集落である古屋の少し手前で車止めとして登山準備をした。

丹波大町の1/25000の地形図には、目指す中津灰山△746.1mの少し西を、破線路が長老ヶ岳の北の集落仏主へと越えている。今回、この破線路を忠実にたどり境界尾根から三角点へ登ることにした。

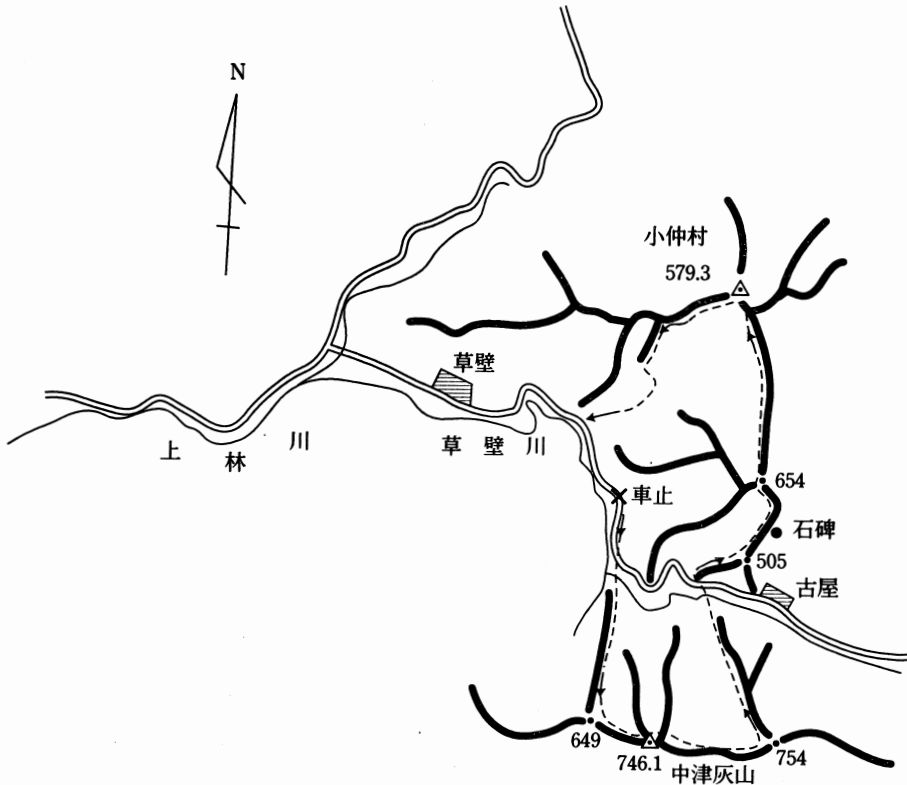
取付点は、車道からの分岐が分かりにくく、気をつけて歩いていないと見過ごすような所で、地図をよく読まなければならないところだ。草が繁り、この道でいいのかと思うような所であっ

たが、入ってみると地図通り谷まで下りることが出来た。でも、下りた谷は、渡る橋はなく、兩岸に古い橋の基礎が残っていただけで少し上流に、かろうじて渡れる丸木が横たわっていた。谷を渡り、尾根への取付も少し分かりにくかったが疎林を1ピッチ登ると尾に乗ることが出来た。ヤブ山に登るには、取付点が大事で、その取付がうまくいけば、八分山に登ったようなものである。うまく尾に乗ったところで、同行者のK氏が、体調悪く引返すと言うので、我々の下る予定地へ、車の回送を約束して別れた。

尾根を1本調子に登る道は、一部ブッシュもあったものの、よく踏まれた所もあって、比較的歩きやすかった。綾部市と和知町の境界尾根に乗る少し手前で破線路と別れた。この地点はピーク649へ登ると、遠回りになるので、忠実に尾根を辿り境界線に乗ることにした。そこからひとつコブを越えると中津灰山△746.1mに着いた。この山は、ヤブ山でもありあまり登られていない山で、ゴミひとつない自然林の美しい静寂な山頂であった。恐らくガイドブックにでも載れば、すぐにでも多くの人達が登るであろうと思った。

今日は、当初この山だけの予定であったが、古屋をはさんで北にある点名小仲村△579.3mにも登る欲張った計画をたてたので、少し休憩をただけで先を急ぐことにした。

三角点から、東へ稜線を右に大きく長老ヶ岳を望みながら歩く。この当りも、爽やかな風をうけながら自然林のある稜線歩きを満喫出来るところである。山頂から1km、次のピーク754mに達した。



この独標点は、どちらかと言えば中津灰山より山頂らしく、なにか山頂に着いてホットするような場所で三角点のほしい所であった。休憩のつもりが、この後のコースは下り一方になるので、ここで昼食を摂ることにした。

次の三角点までは、相当距離もあるので、ゆっくり休憩もしておられず、食事時間は30分程で切り上げ腰を上げた。

古屋へ向って、北西に伸びる尾根を高度差450mの下りを一気に降った。そして、次の目的地小仲村へは、車道を250m程西へ戻り、ピーク505mへ延びる尾の端から登り始めた。

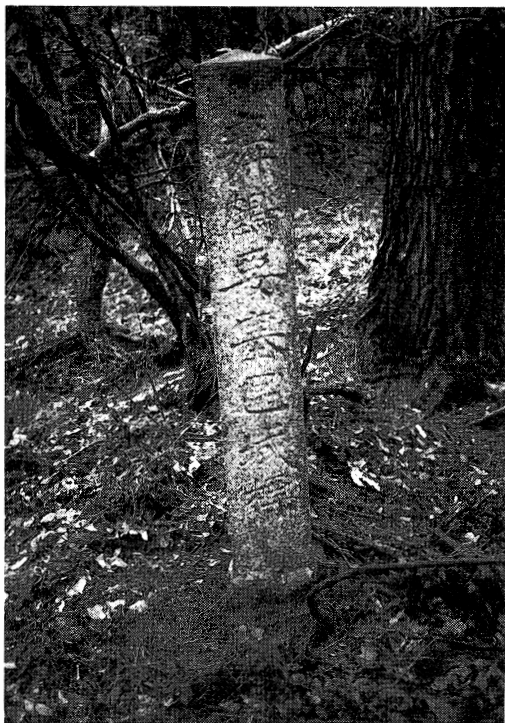
先程の一気の下りに加えて、今度は200m程の登りに、フーフー、ハーハー息切れがする。途中、一呼吸入れ、ピーク505mに立つ。東側が明るく開けて、涼しい風が谷から吹き上げてくる。南面には大きく長老ヶ岳が望め、いい展望台であった。

次のポイントピーク654mまではまだ150mの登りがあるので、今までよりピッチをゆるめて、ゆっくりと登ることにした。やはり欲張って2山を登るとなると、この蒸し暑い梅雨時にはスタミナ切れがする。樹林の間を汗をたらし登るとめずらしいものが目に入った。「舞鶴要塞区域標」明治32年7月陸軍省、第35号と1m20～30cmの石碑が建っている。昔は重要な地域であったのだろう。今の平和な時代にポツンと山の中に取り残された碑を見て、軍国時代のことを思い浮かべた。そこからすぐにピーク654mに辿り着いた。ここからは、真北に延びる尾根を小仲村の三角点に向うのだが、よく地図と磁石を見ないと西の尾へ乗ってしまう。

分岐する尾根は、少し分かりにくい、少し下ると顕著な尾がすぐに出て来た。尾に乗って一直線に北に向かうと目指す三角点である。山頂近くで、明るかった空から少しパラパラと雨が落ちたが、雨具をつけるまでもなく、そのまま579.3mの小仲村(点名)に着いた。特にピーク状にでもなっているでなし、注意して歩かねば通り過ぎるような三角点。京都山の会の横田氏が『京都府の三角点峰』で「余程の酔狂な人か、三角点マニアがたまに訪れるくらいであろう」と紹介されていることがうなづけた山であった。

下りは、これ又むつかしいコースを採り、分岐毎に地図とにらめっこをして、草壁川に沿って走る車道へ下り立った。

一日2山、欲張ったヤブ山山行であったが、楽しい読図山行が出来た一日であった。



舞鶴要塞区域標



### 【コースタイム】

洛西 8:00 — 9:20 古屋 9:35 …… 11:00 境界尾根 …… 11:12 中津灰山 11:25 …… 11:53

P 754 12:28 …… 13:00 車道 …… 13:34 P 505 …… 14:13 P 654 …… 14:57

小仲村三角点 15:30 …… 16:30 車道 17:30 — 19:30 洛西

【参加者】 大槻雅弘, 国友 修 他2名

### 【第2087回例会】

## 大峰 行者還岳（三等△1,546.2m）

井戸 澄夫

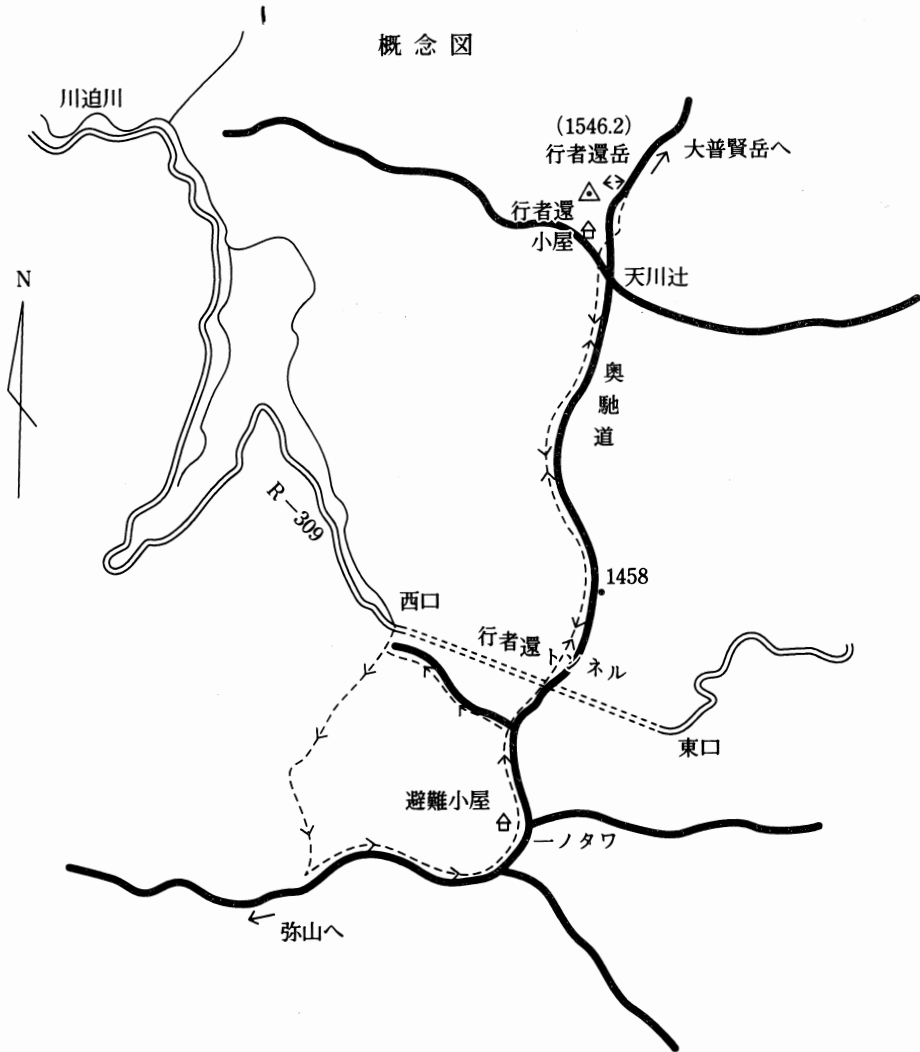
6/22（土）梅雨時の大峰山脈であるから、当然のごとく雨を予想していたが、何という天啓であろうか、前夜までの雨がきっちり止んでくれている。壬生にジャンボエスペースをとりに行き、三橋氏と山岡君を山科に迎えにいき、さらにR-24の田原本で堀田君を拾って全員が揃った。下市から丹生川上神社（下社）を通り、黒滝茶屋というところで夕食をとることにする。鮎漁の解禁日が6月30日ということだが、水槽には形のよい鮎がたくさん泳いでいる。そこで今年初の鮎の塩焼きを賞味することにした。幕営地の行者還トンネル西口には19:00に到着した。ビールを酌み交わし、翌日の好天を祈って床についた。

6/23（日）梅雨の晴れ間というか、青空さえ顔を出し、今日1日の好天は確保できそうだ。トンネル西口から谷ぞいに入り、途中で尾根の登高になり、1時間ほどで奥馳け道に到着する。ここまでは昨年弥山・八経ヶ岳と同じルートである。今回は弥山とは反対の方向に行く。標高1,500m前後のなだらかな尾根道が続く。下草もなく快適な尾根歩きである。行者還トンネルの直上部で、トンネル西口へ直接下りる道の標識があった。地図にも記載がなく、登り口も見つからなかったのだが、近道なので下山に使用することにした。

行者還小屋は無人小屋ではあるが非常にきれいな小屋である。小屋から行者還岳へは、一旦、右側の巻き道から本峰の北側へ出て、頂上へは往復することになる。これは行者還岳の南面が切り立った壁になっているからで、昨年知り合った山伏に聞いたところによると、弥山・八経ヶ岳から奥馳修行にやってきた山伏が険しい山の姿をみて引き返したことから行者還の名がついたということである。右側へ巻いている道もかなりの急勾配で、ハンゴがついている。山頂は三等三角点の標石があり、かなりの広さがあるが眺望は悪い。早目の昼食をとり、セレモニーを行って下山した。下山路は来る時に発見したトンネル西口への近道をとった。かなりの時間短縮となっ

た。

帰路はトンネルを抜けて北山谷側へ入り、入ノ波温泉で入浴するつもりであったが、トンネルの東側で土砂くずれがあり、通行不能の状態になっているということが、戻ってきた人の情報で分かった。そのため天ノ川温泉で入浴して帰路についた。翌日はまた大雨が降った。



【コースタイム】

6/22 (土) 14:00 山科 (R-24) 15:30 田原本 — 18:00 黒滝茶屋 (夕食)  
— 19:00 行者還トンネル西口 (テント)

6/23 (日) 5:00 起床 (朝食) 6:15 …… 7:05 尾根 7:20 …… 7:45 一ノタワ …… 8:20  
1,548m ピーク …… 9:00 天川辻 …… 9:10 行者還小屋 …… 9:35 山頂 10:30

…… 10:50 小屋 …… 11:50 トンネル上分かれ …… 12:35 トンネル西口

【参加者】 三橋 勉, 山岡昭弘, 堀田 剛, 井戸澄夫

## 「火 打 山」 2,462m

梅津 吉 田 武

今年は雪がなかなか溶けないようでこれも気温が上昇しないからだろう。

6月12日20:00京都を出発する。昨日の週間天気予報を見たら本州中部は雨マークで、当初計画を立てていた聖岳と光岳を取りやめて、唯一晴マークのついている新潟地方に行先を変えた。

百名山でまだ登っていない火打山に行く事にした。

以前家族（妻と長男）で登ろうと笹ヶ峰のキャンプ場でテントを張り、黒沢から十二曲まで来たが、子供が泥だらけで、天候も悪く途中で引き返した山である。

いつものように敦賀ICから北陸道を使用する。約6時間程で名立谷浜SAにつく。芝草でテントを張り仮眠する。

AM5時SAを出発して上越ICからR18を関川、そして杉野沢スキー場より笹ヶ峰牧場から笹ヶ峰国民休暇村の駐車場に車を置いた。

駐車場には直径10m、高さ3m位の雪の固まりがまだ残っていた。

高谷池ヒュッテが営業している事を聞いたので素泊りの用意をして出発する。うぐいすの声を聞きながら木道から樹林帯へと入っていく、約1時間で黒沢を渡る。

95年7月の水害で橋は流されて、今は大きなミズナラの木が横たわり仮橋となっている。少し歩くとよいよ十二曲りで、昨日より登った人が降りて来たので、雪の状態を聞いたら十二曲途中より直登で、雪面をアイゼンをつけて登った方が良いと言われたので、雪が出て来たらずぐにアイゼンをつけて直登する事にした。

十二曲の標注附近にシラネアオイの群落を見つける。美しい花で新緑の中にとけ込んでいてしばらく立ち止まって観賞した。2mから3m位の残雪で、オオシラビソが埋っている尾根を登ると富士見平についた。一面の残雪で、正面に黒沢岳を見ながら小休止をした。

黒沢岳の左側をトラバースしてしばらく行くと、前方が開け火打山や焼山が目飛び込んでくる。下方左手に高谷池ヒュッテの三角屋根が見える。12時、高谷池ヒュッテにつく。ヒュッテ前の雪原に置かれた板の上で乾杯をした。時間は十分にあるので附近をブラブラして、夕方まで寝る事にした。4時に夕食をして早々に就寝した。

14日、AM5時に軽食をすませて出発する。天狗ノ庭を縦断して少し右にルートを取り、忠実に尾根に取付く。この辺は雪がなく小ピークを越した所で火打山、最後の登りでアイゼンをつけ

る。直登で2ピッチ途中上部ハイマに入るが、すぐに残雪の上を歩く。やっと頂上についたが雪が全然なかった。

三等△で写真をとる。北ア後立山連峰や、妙高山、黒姫山、そして地藏岳、一際高妻山と乙妻山が大きく立っていた。白煙（水蒸気らしい）が立ち込める焼山がピラミッドのように天を突いていた。1時間30分位で高谷池より火打山まで行けた。

いつもながら残雪の下山は楽しい。1時間程で高谷池に戻り、ザックをパッキンして往路を下山した。途中の十二曲も雪が溶けて少し歩きにくかった。

帰路、笹ヶ峰から燕温泉「岩戸屋」に入浴して、京都まで帰った。

【参加者】 吉田 武 他2名

## 例 会 報 告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
2085	伊勢 七洞岳	6月15日		岡田 茂久	鷺見(敏), 鷺見(壽), 国友, 方山, 和田, 他1名	(別稿詳報)
2086	中津灰山	6月22日		大槻 雅弘	国友, 他2名	(別稿詳報)
2087	大峰 行者還岳	6月22日 ~23日		井戸 澄夫	三橋, 堀田, 山岡	(別稿詳報)
2088	黒姫山	7月6日 ~7日		大倉寛治郎		延期しました。

## 部 員 動 静

目的地	月日	天候	参加者	記 事
火 打 山	6月12日 ~14日		吉田 武	(別稿詳報)

# 報 雑

## △△△ 6月の企画運営委員会

日 時 6月25日(火) 18時30分～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋  
内 容 8月例会について, 岳連報告等

## △△△ 7月の集会

日 時 7月11日(木) 18時30分～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 (OB) 坂井, 渡辺 (梅津) 吉田 (竹田) 大倉  
(本局) 岡田, 大槻, 井戸, 方山, 山元 以上9名

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

6月号 比良山岳  
7月号 比良山岳, 青嶺, 近畿山行, 一等三角点, わっぱ, 北山, 山友, 木雞

### ★ 自然(地学)観察会のご案内

京都府山岳連盟自然保護委員会

「鞍馬石, 貴船石, 石灰岩, 化石」の不思議について

鞍馬石はなぜ鉄錆色をしているのでしょうか?

加茂七石の鞍馬石, 貴船石とはどんな石でしょうか?

この地域の石灰岩にはどんな化石が見られるのでしょうか?

皆様のこの疑問にお答えする為に観察会を開催したいと思います。ふるってご参加下さい。

期 日 平成8年9月8日(日)雨天決行

講 師 岩田修一(財)益富地学会館評議員

京都府山岳連盟自然保護委員

コース 叡電鞍馬駅-鞍馬寺自然科学館-木の根径-貴船神社-貴船口駅

集 合 叡電出町柳駅9時発鞍馬行に乘車, 鞍馬駅集合

費 用 交通費各自, 観察会会費 一人 500円

携行品 日帰りハイキングの装備, 弁当飲み物, ルーペ

申し込みは8月29日までに 岡田まで(790)

△△△ 訂正

山岳部報(1996年7月号)18ページ「東北・北海道春の山旅」の下記の部分がまちがっていたので、訂正いたします。

P.18 本文上より八行目 会長(塩竈山岳会々長)

下から4段目 田東山→田東山

P.19 上より3段目 ここに手→牛

下より4段目 大間岬→大間岬

P.20 6行目 それあり→それより, 9行目 字万部山→写万部山

10行目武鳥川→鷗川(チガワ) 19行目 アイヌスギ→アイヌネギ

(行者ニンニク) 下から8行目 毛鐘及山→毛鐘尻山

# 全国一等三角点 踏破へ



北海道の地図を手に、目標達成に夢をはせる坂井さん(京都市右京区の自宅)

## 京の72歳登山家

全国にある一等三角点のうち、標高五百以上の山五百四十八カ所の踏破を指してきた京都の老登山家が今夏、最後に残った北海道の山にチャレンジし、四十年来の夢をかなえる。三角点からの眺望を目標にする登山仲間が多いが、この登山家は「これだけ多くの三角点に登った人は、他にいないはず。達成まで気を抜かず頑張る」と、健脚の鍛練に励んでいる。右京区嵯峨野町、坂井さん。

久光さん宅。若いころ、日本アルピニストの草分けの故今西錦司・京都大名譽教授と知り合い、山の魅力にとりつかれた。「三十八年前、今西さんと登った奈良の三角点の山で、まさに山水画のような景色を見た」。その美しさが忘れられず、一九六四年には同好の仲間や地理学者らと二等三角点研究会を旗揚げ、京都市役所助めの傍ら、全国各地の山を歩いてきた。

これまでに、坂井さんが登った一等三角点は標高三二〇びから四九八びまでの山々。すでに五百三十九カ所に登り、残るは北海道のヒヤシリ山(標高一〇三二び)、辰牛山(同六三〇び)など九つの山になった。今月十六日に京都を出発し、八月九日までにこれらの山を二気に登り切る計画だ。坂井さんは「戦国武将に例えれば、いよいよ天下統一に近づいた気分。最後まで

# 今夏 夢の548カ所仕上げ

まで気を抜かずに頑張ったこと話している。

「7月11日付 京都新聞夕刊」より



家庭用品 } 総合卸商社  
衛生用品 }

## 日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地  
☎ 601 電話 (075) 672-6101(代)  
FAX (075) 661-7332

## 八坂運送有限公司

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4  
TEL (075) 571-1108

帆布・濾布  
テント・シート  
雨合羽

## 木村工業有限公司

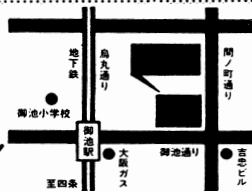
京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カヌーをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



株式会社 **ロッジ**  
**LODGE**

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)  
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US製用品  
ポータブル用品

**Mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548  
営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休  
（株）スポーツ コニシ

拙宅近くに某国立大学があり、リッチな学生は家用車で通学し、ところ構わず駐車してトラブルを起こす。たまりかねた大学当局の貼り紙に曰く「附近住民に多大の迷惑となるので……」と被害者であり納税者の住民に敬語が全くつげられていない。翻って少し離れたナニガシ私立女子大は「ご近所のみなさんのご迷惑になりますので……」とソフトで低姿勢だ。国と私が逆で当り前。官尊民卑がこんなところに顔をのぞかせている。

制作 株式会社 北斗プリント社

〇七五―七九一―六二二五

葦の髄から天井を覗く…… ⑱



# 株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)  
☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取扱  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

**サンコークラフト**

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
TEL (075) 771-3442

平成8年8月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

**京交山岳部**